

## 青枯病抵抗性台木‘チャガマラン’の 三色ピーマンへの適応性



P<sub>0</sub>、P<sub>1</sub>、P<sub>1,2</sub> トバモウイルス  
に抵抗性



P<sub>0</sub> 型トバモウイルスに抵抗性



P<sub>0</sub> 型トバモウイルスに抵抗性

写真 三色ピーマンのトバモウイルス病原型に対する抵抗性

表1 接木の有無と‘やまぶき’の主枝長、節数

|        | 主枝長<br>(cm) | 節数<br>(節) | 平均節間長<br>(cm) |
|--------|-------------|-----------|---------------|
| チャガマラン | 169.0       | 30.4      | 5.6           |
| 自根     | 172.1       | 30.6      | 5.6           |

注) 調査日は平成24年9月25日(摘心8日前)

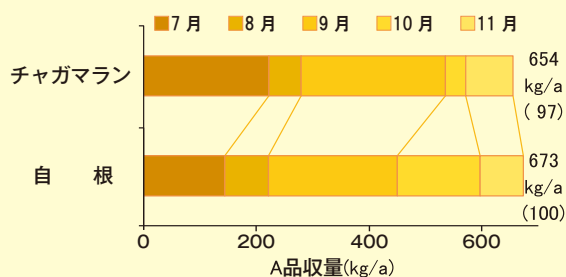


図1 接木の有無と‘やまぶき’のA品収量

表2 接木の有無と‘にしきおり’の主枝長、節数

|        | 主枝長<br>(cm) | 節数<br>(節) | 平均節間長<br>(cm) |
|--------|-------------|-----------|---------------|
| チャガマラン | 191.4       | 30.6      | 6.3           |
| 自根     | 171.5       | 29.6      | 5.8           |

注) 調査日は平成24年9月25日(摘心8日前)

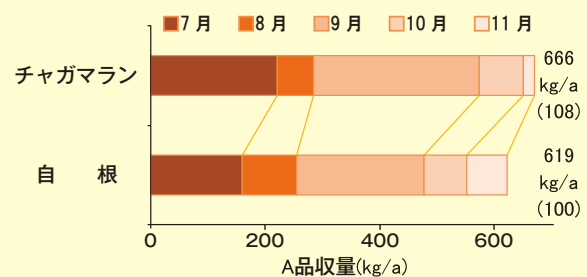


図2 接木の有無と‘にしきおり’のA品収量

山間試験室では、園芸育種担当で育成した台木品種‘チャガマラン’の三色ピーマンへの適応性試験に取り組みました。

‘チャガマラン’とトバモウイルス抵抗性が合致する黄系品種‘やまぶき’および橙系品種‘にしきおり’を用いて、接木と自根栽培で生育・収量を比較しました(写真)。

‘やまぶき’では自根に比べて主枝長や節数など生育に差がなく、A品収量はほぼ同等の654kg/aとなりました(表1、図1)。

また、‘にしきおり’は主枝長が長く、節

数もやや多くなり、A品収量はやや増加して666kg/aとなりました(表2、図2)。

これらの結果より、三色ピーマン黄系品種‘やまぶき’、橙系品種‘にしきおり’に対する‘チャガマラン’の適応性は高く、自根並みの収量を確保できると考えられました。

なお、赤系品種‘くれない’はトバモウイルス $L^3$ 抵抗性遺伝子を持つため、 $L^{1a}$ 抵抗性遺伝子を持つ‘チャガマラン’への接木は行わないでください。

(山間試験室 児玉幸信 0887-72-0058)